

高知県感染症発生動向調査（週報）

2020年 第21週（5月18日～5月24日）

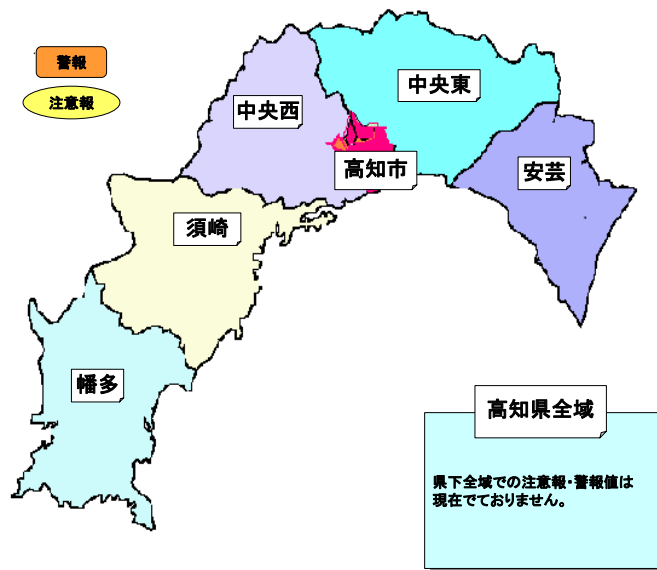
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増
 ↗：増加
 →：横ばい
 ↘：減少
 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	↗	1. 36	安芸、中央西で急増、県全域、高知市で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	0. 61	中央西で急減していますが、県全域、幡多、高知市、中央東で急増しています。
突発性発疹	↗	0. 43	安芸、中央東、幡多で急減していますが、高知市、須崎で急増、県全域で増加しています。
手足口病	↑	0. 36	県全域、高知市、安芸、中央東で急増しています。
咽頭結膜熱	↘	0. 14	高知市で急減、県全域、幡多で減少していますが、中央東で急増しています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

手洗い：感染症予防の基本は手洗いです

- ・爪は短く切っていますか？
- ・指輪・時計ははずしていますか？

- ① 石けんを泡立て、てのひらをよくこすります
- ② 手の甲、指の間や指先、ツメの間まで丹念にこすります
- ③ 親指をねじり洗いし、手首も忘れずにあらいます
- ④ 石けんを洗い流し、清潔なタオルで拭き取って乾かします

汚れの残りやすいところも丁寧に：指先、指の間、爪の間、親指の周り、手首、手のしわ
タオルの共有は避けましょう



★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

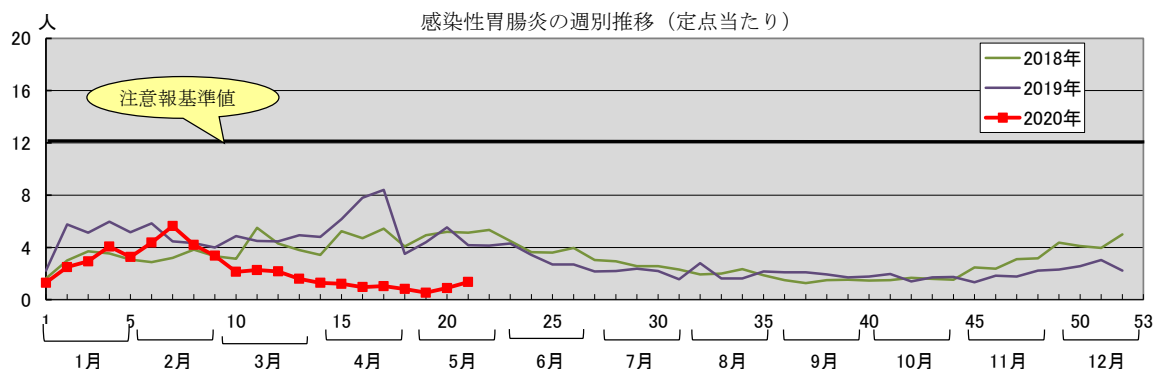
○感染性胃腸炎に気を付けて！

この病気は、ウイルス又は細菌などの病原体により嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。

潜伏期は、ノロウイルスは12～48時間程度、その他のウイルスは24～72時間程度、細菌は数時間～5日程度です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1年を通じて発生していますが、特に冬場に流行します。発症してから通常1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長い時には1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。



<予防方法> 手洗いが有効です

- ・帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。
- ・ウイルスによる感染性胃腸炎では便や嘔吐物を処理する時は気を付けましょう。（ノロウイルスについてアルコール消毒は無効です）

感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

- ・細菌による感染性胃腸炎の予防対策を心がけましょう。

食中毒の一般的な予防方法（【食中毒予防の三原則】食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

【学校感染症】

感染性胃腸炎（流行性嘔吐下痢症）は学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、条件によっては第3種の感染症の「その他の感染症」となります。出席停止期間の基準は「下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能」ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときはこの限りでない」と規定されています。

ダニの感染症（SFTS・日本紅斑熱）に注意！

第 21 週に安芸福祉保健所から「重症熱性血小板減少症」「日本紅斑熱」の発生届けが各 1 例ありました。

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で 3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2 類	結 核	1	26	70 歳代 男	中央東
		1		90 歳代 女	高知市
		1		80 歳代 女	須 崎
4 類	重症熱性血小板減少症候群	1	3	80 歳代 男	安 芸
	日本紅斑熱	1	9	60 歳代 女	
5 類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	4	90 歳代 女	高知市
	後天性免疫不全症候群	1	3	30 歳代 男	中央東
	梅 毒	1	10	40 歳代 男	高知市
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	1	50	50 歳代 男	中央西
		1		50 歳代 女	

★定点医療機関からのホット情報

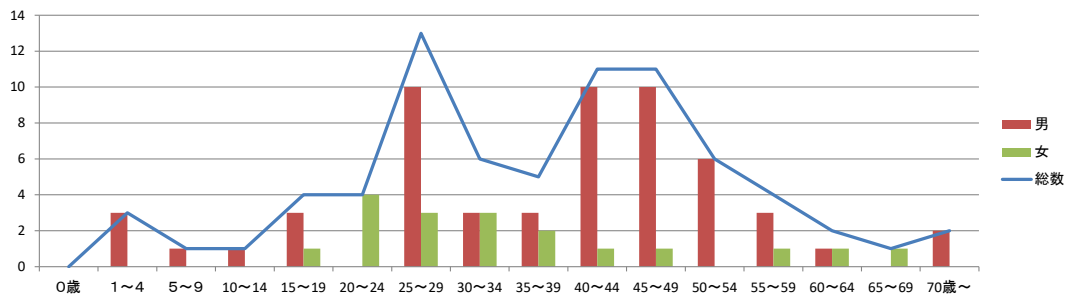
保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	アデノウイルス急性咽頭炎 1 例 (2 歳女)
中央東	高知大学医学部付属病院小児科	サルモネラ腸炎 (O9) 1 例 (9 歳男)
	早明浦病院小児科	感染性胃腸炎 (Ecoli O1) 1 例 (9 ヶ月男)
	JA 高知病院小児科	マイコプラズマ気管支炎 1 例 (14 歳女)
高知市	けら小児科・アレルギー科	カンピロバクター腸炎 1 例 (19 歳)
	福井小児科・内科・循環器科	伝染性紅斑 1 例 (8 歳男) ヘルパンギーナ 1 例 手足口病 2 例
須崎	もりはた小児科	マイコプラズマ肺炎 3 例 (2 歳、4 歳、9 歳) 20 週 マイコプラズマ肺炎 1 例 (8 歳)
幡多	渭南病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 1 例 (10 ヶ月男)
	こいけクリニック	アデノウイルス感染症 1 例 (2 歳女)

★県外で注目すべき感染症

○風しん、先天性風しん症候群を予防しましょう

2020 年第 1 週～第 20 週の累積報告数は 74 人となっており、そのうち 88% (65 人) が成人で、25 歳から 50 歳代の男性を中心に (男性 56 人、女性 18 人) となっています。

2020年累積風しん報告数(年齢別・性別)



妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんにも感染し「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

風しんの予防にはワクチンを接種し、風しんに対する免疫を獲得することが有効です。風しんに対する十分な免疫があるかどうかは、抗体検査で確認することができます。

赤ちゃんが生まれつきの病気にならないよう家族みんなで風しん抗体検査を受け、免疫がない場合は予防接種を受けることをご検討ください。

【無料の風しんの抗体検査について】

現在県内では2つの事業で「風しん」に対して十分な免疫があるかどうか確認するため無料の抗体検査を実施しています。

- 対象者**・高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性
- ・妊娠を希望する女性または風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者など（生活空間を同一にする頻度が高い方。婚姻の届けを出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある方を含む）
 - ・風しんの追加的対策として、1972年（昭和47）年4月2日から1979年（昭和54）年4月1日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布
- 1962（昭和37）年4月2日から1972（昭和47）年4月1日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

検査受付：実施医療機関ごとに異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）

検査結果：検査後1～2週間後に郵送もしくは再来院にてお知らせいたします

厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第5期定期接種受託医療機関）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/fushinkensa.html>

風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）<https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

●風しんの追加的対策関係：医療機関・健診機関向け手引き（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000116890_00003.html

●風しん Q&A 2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/

●衛研ニュース第20号（高知県衛生環境研究所）30～50歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

★高知県の新型コロナウイルス感染症情報

高知県庁ホームページ：

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111301/info-COVID-19.html>

★新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（国立感染症研究所 IDWR2020 年第18・19号より）

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において確認された。世界保健機関（WHO）は、2020年1月30日、新型コロナウイルス感染症について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言した。その後WHOは、世界的な感染拡大の状況、重症度等から3月11日新型コロナウイルス感染症をパンデミック（世界的な大流行）とみなせると表明した。

2020年5月13日12時現在、感染者数（死者数）は、世界で4,212,636例（290,463例）、204カ国・地域に広がった。感染者数が3万例を超えたとして報告のあった国は22カ国あり、それらは米国1,369,314例（82,340例）、ロシア231,912例（2,112例）、スペイン228,030例（26,920例）、英国226,463例（32,692例）、イタリア221,216例（30,911例）、ブラジル177,602例（12,404例）、ドイツ173,171例（7,738例）、トルコ141,475例（3,894例）、フランス140,227例（26,991例）、イラン110,767例（6,733例）、中国82,926例（4,633例）、ペルー72,059例（2,057例）、インド70,756例（2,293例）、カナダ70,342例（5,049例）、ベルギー53,779例（8,761例）、オランダ42,984例（5,510例）、サウジアラビア42,925例（264例）、メキシコ36,327例（3,573例）、パキスタン32,674例（724例）、チリ31,721例（335例）、スイス30,380例（1,542例）、エクアドル30,149例（2,327例）であった。

国内は、厚生労働省からの報道発表によると、2020年5月13日12時現在、新型コロナウイルス感染症のPCR検査陽性者16,024例、うち死者668例と報告されている。PCR検査実施人数は223,667例であった。また、2月3日に横浜港に到着したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」については、5月12日24時現在、PCR検査陽性者712例、うち無症状病原体保有者331例、死者13例であった。なお、国内外の患者数等に関する情報は刻々と変わっていることに注意されたい。

本稿では、2020年2月1日に新型コロナウイルス感染症が指定感染症となった以降、第19週（2020年5月13

日)までに感染症発生動向調査(NESID)へ届け出られた15,184例(患者13,525例、無症状病原体保有者1,634例、感染症死亡者の死体25例)(以下、症例という)に関する記述疫学を行う。なお、本症については、サーベイランスシステムが届出に対応可能となった以降に届け出られた情報のみ反映されていることから、国や自治体の報道発表情報と必ずしも一致しておらず、注意が必要である。すなわち、以後の情報はNESIDに届け出られた症例全体の内訳であり、また、自治体による確認が行われていない報告は含まれていない。

症例の性別は、男性8,454例、女性6,726例、不明4例(男女比1.3:1)であり、男性に多かった。

年齢の中央値は49歳(範囲0~04)であった。年代別分布は10歳未満243例(1.6%)、10代355例(2.3%)、20代2,450例(16.1%)、30代2,299例(15.1%)、40代2,377例(15.7%)、50代2,531例(16.7%)、60代1,848例(12.2%)、70代1,624例(10.7%)、80代1,049例(6.9%)、90代以上408例(2.7%)であった。

主な症状(重複あり)は、届出時点で発熱11,487例(75.7%)、咳6,589例(43.4%)、咳以外の急性呼吸器症状1,357例(8.9%)、重篤な肺炎1,055例(6.9%)であった。

届出都道府県は、東京都5,076例、大阪府1,753例、神奈川県1,597例、埼玉県967例、千葉県951例、北海道715例、兵庫県690例、福岡県611例、愛知県400例、石川県255例、茨城県165例、岐阜県151例、広島県150例、群馬県147例、富山県126例、福井県97例、滋賀県91例、奈良県88例、宮城県81例、福島県81例、長野県75例、静岡県72例、新潟県69例、山形県67例、京都府62例、和歌山県62例、沖縄県61例、大分県59例、栃木県56例、愛媛県48例、高知県48例、三重県45例、佐賀県40例、山梨県36例、山口県36例、青森県27例、島根県24例、岡山県24例、長崎県17例、宮崎県17例、秋田県16例、熊本県11例、鹿児島県10例、徳島県5例、鳥取県3例、香川県2例であった。

国内では、3月上旬から海外との関連が疑われる事例が増加してきた。また、感染源不明の症例が散発的に発生し、3月中旬には感染源不明の症例が占める割合が継続的に増加してきた。3月下旬には、都市部を中心にクラスター(患者間の関連が認められた集団)感染が次々と報告され、感染者数が急増した。5月13日現在、NESID上、報告の最も多かった日は4月9日(627例)、発症の最も多かった日は、4月1日(404例:発症日の判明している症例のみ)であった。その後も届出数の多い状況が続いているものの、4月初旬をピークとして緩やかに減少してきた。

国内での行政対応については、3月10日、新型インフルエンザ等対策特別措置法の一部改正が閣議決定され、新型コロナウイルス感染症が新型インフルエンザ等対策特別措置法に規定する新型インフルエンザ等とみなされることになった。3月28日には「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」が発表され、この中では、国民の生命を守るためには、感染者数を抑えること及び医療提供体制や社会機能を維持することが重要であり、「三つの密」(密閉空間・密集場所・密接場面)を避けること、積極的疫学調査等によるクラスターの発生の封じ込めが推進されている。その後、肺炎等の重篤な症例の発症頻度が相当程度高く、国民の生命及び健康に著しく重大な被害を与えるおそれがあり、かつ感染経路が特定できない症例が多数に上っていること、かつ急速な増加が確認されており、医療提供体制もひっ迫してきていることとして、4月7日には7都府県(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県)に対して、4月16日には全都道府県を対象に、緊急事態宣言が発出された。各自治体は、国の取り組みに並行して、流行状況に合わせた様々な取り組みを実施している。5月14日、感染の状況、医療提供体制、検査体制の構築などの点が総合的に判断され、北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、京都府、大阪府、兵庫県の8都道府県を除く、39県において緊急事態宣言の解除が行われた。

新型コロナウイルス感染症については、病原体や疾患に関する知見が徐々に蓄積されつつある。飛沫感染・接触感染を主とする感染経路であり、一部の感染者及び感染者の行動や、環境要因によっては強い感染伝播が発生する場合があると考えられている。臨床的な特徴としては、1~14日(5日間が最も多い)の潜伏期間(2月23日付WHO)を経て、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等で発症する。感冒様症状が1週間前後持続することが多く、この頃より胸部X線写真、胸部CTなどで肺炎像が明らかになることがある。一部のものは、呼吸困難等の症状を呈し、重症化する。また、発症者の多くが軽症であると考えられているが、特に高齢者や基礎疾患等を有する者においては重篤になる可能性があるため嚴重な注意が必要である。

発行：高知県感染症情報センター(高知県衛生環境研究所)
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1(保健衛生総合庁舎2階)
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

この情報に記載のデータは2020年5月25日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(57定点医療機関)

第21週 令和2年5月18日(月)～令和2年5月24日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(20週)	高知県(21週未累計)		全国(20週未累計)	
											R1/12/30～R2/5/24	R1/12/30～R2/5/17		
インフルエンザ								()	()	15 ()	7,096 (147.83)	562,794 (114.23)		
小児科	咽頭結核膜炎		1			1	2	4 (0.14)	5 (0.18)	293 (0.09)	109 (3.63)	17,036 (5.41)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5	7			5	17 (0.61)	6 (0.21)	1,794 (0.57)	1,115 (37.17)	128,198 (40.72)		
	感染性胃腸炎	5	9	13	4		7	38 (1.36)	25 (0.89)	3,468 (1.10)	1,421 (47.37)	219,961 (69.87)		
	水痘			1				1 (0.04)	3 (0.11)	298 (0.09)	100 (3.33)	17,876 (5.68)		
	手足口病	1	1	8				10 (0.36)	1 (0.04)	174 (0.06)	154 (5.13)	6,036 (1.92)		
	伝染性紅斑			1			2	3 (0.11)	3 (0.11)	199 (0.06)	191 (6.37)	16,529 (5.25)		
	突発性発疹			9	2	1		12 (0.43)	8 (0.29)	1,096 (0.35)	179 (5.97)	18,348 (5.83)		
	ヘルパンギーナ			1				1 (0.04)	1 (0.04)	40 (0.01)	12 (0.40)	1,295 (0.41)		
	流行性耳下腺炎			1	1			2 (0.07)	4 (0.14)	124 (0.04)	58 (1.93)	2,917 (0.93)		
	RSウイルス感染症							()	()	22 (0.01)	172 (5.73)	11,979 (3.81)		
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	2 ()	()	89 (0.13)		
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	()	97 (0.14)	8 (2.67)	4,408 (6.36)		
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	10 (0.02)	1 (0.13)	167 (0.35)		
	無菌性髄膜炎							()	()	4 (0.01)	()	166 (0.35)		
	マイコプラズマ肺炎	1		8				9 (1.13)	3 (0.38)	50 (0.11)	61 (7.63)	2,580 (5.42)		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	2 ()	()	35 (0.07)		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							()	()	4 (0.01)	5 (0.63)	195 (0.41)		
計 (小児科定点当たり人数)	7 (3.00)	16 (2.28)	50 (4.55)	7 (2.33)	2 (1.00)	2 (3.20)	98 (3.16)			7,692	10,682 (264.86)	1,010,609		
前週 (小児科定点当たり人数)	3 (1.50)	13 (1.71)	19 (1.99)	5 (1.66)	3 (1.50)	16 (3.00)		59 (2.01)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(57定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	保健所	第21週						計	前週	全国(20週)	高知県(21週未累計)		全国(20週未累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				R1/12/30～R2/5/24	R1/12/30～R2/5/17		
インフルエンザ											147.83	114.23		
小児科	咽頭結核膜炎		0.14			0.50	0.40	0.14	0.18	0.09	3.63	5.41		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.71	0.78			1.00	0.61	0.21	0.57	37.17	40.72		
	感染性胃腸炎	2.50	1.29	1.44	1.33		1.40	1.36	0.89	1.10	47.37	69.87		
	水痘			0.11				0.04	0.11	0.09	3.33	5.68		
	手足口病	0.50	0.14	0.89				0.36	0.04	0.06	5.13	1.92		
	伝染性紅斑			0.11			0.40	0.11	0.11	0.06	6.37	5.25		
	突発性発疹			1.00	0.67	0.50		0.43	0.29	0.35	5.97	5.83		
	ヘルパンギーナ			0.11				0.04	0.04	0.01	0.40	0.41		
	流行性耳下腺炎			0.11	0.33			0.07	0.14	0.04	1.93	0.93		
	RSウイルス感染症									0.01	5.73	3.81		
眼科	急性出血性結膜炎											0.13		
	流行性角結膜炎			1.00				0.33		0.14	2.67	6.36		
基幹	細菌性髄膜炎									0.02	0.13	0.35		
	無菌性髄膜炎									0.01		0.35		
	マイコプラズマ肺炎	1.00		1.60				1.13	0.38	0.11	7.63	5.42		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)											0.07		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)									0.01	0.63	0.41		
計 (小児科定点当たり人数)	3.00	2.28	4.55	2.33	1.00	3.20	3.16			264.86				
前週 (小児科定点当たり人数)	1.50	1.71	1.99	1.66	1.50	3.00		2.01						

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2020年 第21週)

